

「福井新々元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井県民の将来ビジョン」に基づき、「福井新々元気宣言」の「元気な産業」、「元気な社会」、「元気な県土」、「元気な県政」に掲げられた政策等を実現するため、県民の理解と参加を得ながら、責任を持って職務を遂行し、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成25年4月

福井県知事 西川 一誠
観光営業部長 伊藤 恵造

I 25年度の基本方針

北陸新幹線金沢開業・舞鶴若狭自動車道全線開通に向けて、観光地の魅力向上と誘客活動を強化します。

北陸新幹線金沢開業や舞鶴若狭自動車道全線開通の効果を最大限に引き出し、北陸三県の中での競争力を高めるため、恐竜博物館や一乗谷朝倉氏遺跡、若狭歴史民俗資料館の新たな魅力を創出します。

また、主要観光地の魅力向上、金沢駅からの直行バスなど二次交通アクセスの充実、北陸新幹線沿線等でのプロモーション活動を強化し、本県への誘客拡大を進めます。

文化施設のレベルアップを着実に進めます。

歴史博物館をはじめとする全文化施設において、質が高く話題性のある企画展が開催できるよう、次年度以降の展示企画の策定やこれに向けた準備を計画的に進めるとともに、学芸員の資質向上を図ります。

また、美術館および歴史博物館においては、県外からの誘客拡大、文化芸術教育の推進、館蔵コレクションの充実を図ります。

ふくい「食」のブランド化と販路拡大を進めます。

全国に誇るふくい「食」のレベルを上げ、ブランド化を進めるとともに、福井の食文化の魅力を発信し、観光誘客を拡大します。

また、国内外でふくい「食」を売り込み、県産食材の販路拡大を進めます。

安心して帰住できる仕組みを作ります。

本県の定住魅力の高さを強力に発信し続けるとともに、市町と共動して、定住相談会の開催や空き家を活用した定住・交流拠点の整備を図るなど、ふるさと帰住政策をさらに強力に進めます。

また、ふるさと納税制度については、制度の提案県として、より利用しやすい制度になるよう制度改正をさらに国に働きかけるほか、ふるさと納税情報センターの機能、内容を充実させるなど、本県が先頭に立って、一層の普及、定着を進めます。

Ⅱ 25年度の施策

1 観光とブランドを産業の柱に

◇ ブランド拡大の営業戦略

○「ブランド営業」政策

- ・福井が舞台となる、テレビ番組や映画、新書、CMロケ地などの誘致・企画実現により、パブリシティ（無償）と併せた情報発信を継続・拡大します。
- ・映画制作支援を通じて本県を訪れた映画出演者や監督などの関係者とのつながりを持ち続けることにより、福井の新たなファンを増やします。

福井が舞台となるテレビ番組、映画、新書、CM等	5件
県全体でのパブリシティ広告費換算効果 (平成24年度 約18億円)	19億円

○恐竜博物館の新たな魅力づくり

3 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

- ・26年夏オープンを目指し、「野外博物館」の発掘体験広場および足跡化石展示施設の整備を進めます。
- ・第4次発掘調査など恐竜研究の専門性を追求するとともに、国内外の貴重な恐竜コレクションの収集に努めるなど、博物館の展示内容の充実を図ります。
- ・子供に人気があるキャラクターの活用により「楽しさ」を高めるなど、新たな魅力づくりを進めます。
- ・地元市が主体となって進めるまちなかダイノスクエア整備や、民間企業等とのレプリカ体験工房の実現に向け、具体化を進めます。
- ・ロゴキャラクターによる恐竜ブランド商品の開発や、県内企業が製作する恐竜グッズの監修、都市圏での恐竜展への恐竜骨格貸出しなど、恐竜ブランドビジネスを拡大します。

恐竜博物館の入館者数 (平成24年度 54.1万人)	57万人
	チャレンジ目標 60万人
ブランドビジネスの売上規模 (平成24年度 15百万円)	20百万円

○恐竜研究機能の強化

3 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

- ・恐竜博物館が事務局となって、中国、モンゴル、タイなどが参加する「アジア恐竜協会」を7月に設立します。
- ・海外の著名な恐竜研究者を集めた「国際恐竜シンポジウム」を来年3月に開催するとともに、協会ホームページ等により最先端の恐竜研究情報を発信し、アジアの恐竜研究における本県の地位を確立します。

○「一乗谷朝倉氏遺跡」の魅力創出

3 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

- ・遺跡内の電柱電線の地中化を進めるとともに、桜の植樹や自生する花々の種を採取・育苗し植栽するなど、歴史的空間にふさわしい景観形成を進めます。
- ・来訪者がスマートフォンなどで遺跡情報を得られる仕組みを7月から導入するなど、遺跡案内体制を強化します。
- ・「戦国あさくら市」の定期開催など、遺跡内各所での食や土産物の提供体制を充実します。
- ・資料館では、9月に大型企画展を開催するほか、「逸品展」を拡大し、発掘箇所ごとの未公開資料展示を始めるなど、新たに所蔵資料を年間500点程度公開し、展示のレベルアップを図ります。

一乗谷朝倉氏遺跡資料館の入館者数	50,000人
(平成24年度 44,560人)	

○「食」ブランド化の推進と販路拡大【部局連携】

3 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

- ・地酒、今庄つるし柿など、客観的な良さを持っていながらあまり全国に知られていない県産食材を食の分野の第一人者などに評価してもらい、情報発信や外商活動に活用します。
- ・食の専門誌やフードジャーナリストなどのメディア関係者への売り込みを強化し、ふくい「食」を全国へ発信します。
- ・素材にこだわる都市圏の一流ホテルや高級レストランなどに若狭ぐじや上庄里芋等旬の食材を売り込む「外商活動（アタック100）」を展開します。
- ・県産食材を集中的に販売・提供する「福井フェア」を、都市圏の有名百貨店や一流ホテルで継続的に開催し、定着を図ります。
- ・新たに北関東エリアの有名百貨店などで「福井フェア」を開催します。

外商活動による新規契約成立件数（累計） （平成24年度末 93件）	110件	チャレンジ目標 120件
百貨店、高級スーパーでの福井フェア開催件数 （平成24年度 8件）	10件	

◇ 観光を福井のリーディング産業へ

○観光地の魅力アップの加速【部局連携】 3 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

- ・観光地や施設の魅力向上を図るため、温泉情緒溢れるあわらのまちなか整備、敦賀金ヶ崎の「鉄道と港」のまちづくり、三方五湖周辺の景観づくりを進めます。
- ・新たに、福井市浜町、永平寺門前、今庄宿および小浜西組周辺における観光まちなみ整備にかかる市町の計画策定を支援し、観光地の魅力アップを加速します。
- ・自然景観、歴史・文化、食などの観光素材に加え、四季折々の花、夕日や星空、ホタル、漁火などの光を活かした「福井ならではの」素材の掘り起こしや磨き上げ、まちなか等を周遊する仕組みづくりなどの支援を進めます。
- ・県内宿泊施設等を対象にしたフェイスブック等のインターネット活用研修を開催し、情報発信力を強化、宿泊客増加を図ります。

観光客入込数 （平成24年 9,774千人）	11,000千人	チャレンジ目標 11,500千人
県内宿泊観光者数 （平成24年 2,428千人）	2,500千人	
		チャレンジ目標 2,600千人

○二次交通アクセスの充実

- ・あわら温泉を起点とする恐竜博物館への直行バスおよびあわら三国特急バスをルートや時期を見直して運行します。
- ・新たに金沢駅からあわら温泉への直行バスの実証運行を行います。

○若狭地域の歴史文化を活かした誘客拡大

- ・若狭地域の歴史文化を発信するため、有形・無形の文化財の公開を地域やジャンルを拡大して実施します。
- ・夜間公開やライトアップなど観光客の滞在時間の延長や宿泊につなげる仕掛けをつくります。
- ・秘仏など文化財の特別公開にあわせ小浜市やおおい町の寺社を巡るツアーバスを実証運行します。

特別公開の文化財

30件

(平成24年度 20件)

○嶺南地域の昼食メニューの普及・拡大

- ・舞鶴若狭自動車道の全線開通に向け、市町や若狭湾観光連盟などと共動して、嶺南地域の飲食店や民宿等に働きかけ、地元の食材を活かした手頃な価格の昼食メニューを提供する店舗を増やします。
- ・提供店舗やメニューの紹介については、ホームページを活用して情報発信するとともに、夏休みまでにパンフレットをサービスエリアや道の駅などに配布し、誘客につなげます。

昼食メニュー提供店舗数

100店舗

チャレンジ目標 120店舗

○観光情報発信と誘客プロモーションの強化 3 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

- ・北陸新幹線沿線駅を中心に、市町や観光協会、観光事業者等とともに、地元メディアや旅行会社に対する営業訪問を強化します。
- ・観光プロモーション活動に東京駅と上野駅も加え、大型広告を上野駅と大宮駅に掲出するほか、今年度新たに制作する観光プロモーション映像を利用した魅力発信を行い、福井の認知度向上を図ります。
- ・恐竜をモチーフにした子ども向け映画を活用した本県のPRコマーシャルを首都圏で放映し、ファミリー層をターゲットにした誘客プロモーションを強化します。
- ・関西・中国エリアを対象に、「食」と「海」を中心とした誘客拡大を図るため、NEXCO中日本、西日本等と、舞鶴若狭自動車道を活用した定額乗り放題キャンペーンの実施に向けた協議を進めます。

○「福井がわかる」ニューツーリズムの推進 3 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

- ・大手旅行会社と共働で、恐竜博物館での特別プログラムや奥越地域の自然を体験する滞在型ツアーを夏までに実施します。
- ・夏に関西・中京圏から恐竜博物館直行バスを運行し、車内での特別解説や現地での化石発掘体験を組み合わせた日帰りツアーを実施します。
- ・関西・中京圏の大学への営業訪問を強化し、昨年度誘致に成功した延べ5万人を上回る学生合宿を誘致します。
- ・石川県とともに、関東地区や信越地区など北陸新幹線沿線の中学生や高校生を対象とした恐竜や体験漁業などを組み合わせた旅行コースを企画し、両県で協力して誘致します。
- ・「恐竜」など本県が国際的にアピールできる分野を中心に、国や都市圏の大学・学術機関、各種団体などへの営業訪問活動を通じ、300人以上が参加する大型のコンベンションを誘致します。

県外からの教育旅行者数 (平成24年 65,900人)	68,000人
	チャレンジ目標 70,000人
県内におけるコンベンション開催件数 (平成24年度 263回)	265回
	チャレンジ目標 280回

○広域新観光の推進

- ・27年秋の北陸デスティネーションキャンペーンに向けて、富山県、石川県およびJRと共同し、誘客活動や観光客受入態勢の整備を進めます。
- ・越前加賀エリアについて、周遊プランの造成やレンタカー乗り捨て料金の割引キャンペーンの実証など、北陸新幹線開業に向けてエリア誘客を強化します。

2 生活のなかに楽しむ県民文化

◇ 生活に福井の文化

○文化施設の活性化

3 地域間競争を勝ち抜く観光・ブランド戦略

- ・ 県外からも集客できる質が高く話題性のある企画展を計画的に開催するため、夏までに26・27年度展覧会の企画案を作成します。
- ・ 学芸員で構成するミュージアム活性化研究会を設置し、美術館特別館長等からの指導・助言を得て、学芸員の資質向上を図ります。

(美術館)

- ・ 「ミケランジェロ展」、「岡倉天心展」では、4月から県内書店・飲食店とタイアップしたPRや美術番組での放映、美術系雑誌への掲載などを働きかけ、県外からの誘客を強化します。
- ・ 学校鑑賞会の実施や子どもが作品を間近で鑑賞できるバックヤードツアーの開催など、美術館を利用した美術教育を推進します。
- ・ 集客の目玉となる館蔵コレクションを充実するため、資料調査を進めます。
- ・ 2月下旬から、本県所蔵の小野忠弘コレクションと青森県所蔵の棟方志功コレクションの交換展を開催します。

(歴史博物館)

- ・ 常設展示を本県の歴史を通史的に分かりやすく紹介する展示に見直します。

(若狭歴史民俗資料館)

- ・ 26年夏のオープンに向け、絵巻や屏風などの文化財や伝統的な祭りで使われる大型の山車飾りなどのシンボル展示、普段見る機会の少ない仏像の順次公開など、資料館の全面的なリニューアルを進めます。

歴史博物館の入館者数	85,000人
(平成24年度 83,968人)	
美術館の入館者数	200,000人
(平成24年度 230,313人)	

○子どもたちが一流の芸術・文化に触れる機会をさらに拡充

- ・子どもたちが学校、地域において、身近に芸術・文化活動に親しむことができるよう、県立美術館の所蔵作品を活用した学校等での鑑賞授業や、地域の文化会館等での子ども向けコンサートを開催します。
- ・小学校5年生全員に、県立音楽堂での本格的なオーケストラコンサートなど本物の芸術文化に触れる機会を提供します。
- ・新たに「ふくい天心美術塾」(ワークショップ)の開催など中高生などが一流のアーティストから指導を受ける機会を拡充します。

一級の芸術・文化を体験する子どもの数	73,000人
(平成24年度 71,637人)	チャレンジ目標 74,000人

3 豊かな環境、もっと豊かに

◇ 景観を県民資産に

○景観資源の保全と活用

- ・ふるさと福井の美しい景観を守り育てていくため、「福井ふるさと百景活動団体」と「伝統的民家保存活用推進地区」の認定・指定を進め、街並みの緑化や、夜間景観の演出など、地域住民による景観を活用・保全する活動を活性化します。
- ・より多くの人に、実際に百景を訪れてふるさとの美しい景観に親しんでいただくため、市町や地域住民と協力し、新たに百景ビューポイントの整備を進めます。

景観づくり活動に取り組む団体数	累計 20団体
(平成24年度末現在 13団体)	
伝統的民家の集積を活かした街並みや集落景観の保存活用に取り組む地区数	
(平成24年度末現在 12地区)	累計 18地区

4 「希望ふくい」のふるさとづくり

◇ 選ばれるふるさと

○ 県外からの定住・交流促進

- ・市町と共働して、定住相談会を県外で開催するなど、定住希望者に対する相談体制を充実させます。
- ・市町と共働して、空き家を活用した定住・交流の拠点施設を整備し、県外在住者に宿泊体験等の機会を提供します。

新ふくい人の数	330人
(平成24年度 321人)	

○ 「ふるさと納税制度」の普及推進

- ・リピーター確保に重点をおいた営業活動を行い、全国トップクラスのふるさと納税実績を目指します。
- ・都道府県を通じて全国の自治体に、制度普及のための取組みやふるさと納税実績などの掲載を働きかけ、「ふるさと納税情報センター」の内容を充実させます。
- ・年末調整で控除できる仕組みの実現など、寄付者にとってより利用しやすい制度改正を他県とともに国に強く働きかけます。

ふるさと納税寄付金の寄付額	75,000千円
(平成24年度 56,419千円)	チャレンジ目標 80,000千円

○ 国際交流の推進

- ・世界5大陸（15か国）の子どもたちを本県へ招待する「世界少年野球大会」を8月に開催し、県民との交流行事など国際交流の機会を拡大します。
- ・海外から研修生等の派遣・受入を行い、県民が外国人とふれあう機会を増やします。